「里山レンジャーのロマン紀行　No.１３　３月２３～４月８日」

　里の恵みビオトープの残雪もほとんど消え、地面が締まってきたところで、冬ごもりの期間に製作した看板を設置しました。

　遊歩道沿いにある数少ないオオバマンサクの一本に待望の開花を確認しました。

　銘々は、「未だ雪が降る季節というのに咲き始め、まず咲くからマンサク」だとか。春を告げる花の一つです（３月２８日撮影）。

「春の妖精」の代表キクザキイチゲが、昨春よりも株数をたくさん増やして開花しました。山の恵みビオトープ内で生息域を広げています（３月３０日撮影）。

オオウバユリの若葉です。鱗茎はデンプンを含み食用にできます。オオウバユリは、種から発芽して開花まで６～１０数年かかります。鱗茎は年々デンプンを蓄え、肥大化し、やがて咲く年に初めて１～２ｍの花茎を立ち上げ、蓄えたデンプンを全部使い切って、１０から１５ｃｍの花を１０～２０輪咲かせ、結実して一生を終えるという一回繁殖型多年生植物です。壮大な一生を感じさせる植物です（３月３０日撮影）。

４月５日から２週間をかけて遊歩道の間伐や倒木の除去整備を行いました。

今春も遊歩道沿いにタムシバが開花しました（４月５日撮影）。この時期、山々に白い花が春の訪れを告げてくれますが、コブシなのか、タムシバなのかは近くで観察しないと判別できません。当地のものは全てタムシバです。

「春の妖精」イチリンソウも敷地のいたるところに生息域を広げています。葉の形だけでは、キクザキイチゲと判別が困難ですが、花が咲くと花びらの形で判別できます（４月８日撮影）。

ホクリクネコノメです。山の恵みビオトープ奥の渓流沿いに多く分布しています。
黄色い花のように見えるものは、葉が変化したものです（４月８日撮影）。

ハワサビです。天然物か栽培物かは不明ですが、今年は株数を増やしています。
（４月８日撮影）